

平成25年度第1回 西脇市ふるさと経営推進市民会議 会議録

開催日時	平成25年 8月27日 (火) 19時00分～21時00分
開催場所	西脇市生涯学習まちづくりセンター 会議室2
出席者 ＜敬称略＞	(委員) 中川幾郎、天野孝美、生田伸吾、大嶋俊英、大西すず、 大前道廣、勝岡めぐみ、亀岡澄子、竹内泰彦、藤原孝三、 藤原隆宏、宮崎美椰子、吉田光一郎、大久保恵司、 藤井志帆 <選出区分別50音順> (オブザーバー) 來住市長 (事務局) ふるさと創造部：黒崎部長 企画政策課：細川課長、萩原主査、澤田 まちづくり課：柳田課長、高瀬補佐 行政経営室：徳岡主査
傍聴者	なし (定員5名)

会議の概要

(次第に沿って進行し、協議内容等は以下のとおり。)

○來住市長あいさつ

- ・この夏は、西脇工業高校野球部が初の甲子園出場・初勝利という快挙。やればできる、との勇気を頂いた。
- ・本日は、ふるさと経営推進市民会議が初めて開催される。中川先生をはじめ、委員の皆さんにおかれては、就任をご快諾いただき、感謝を申し上げたい。
- ・この会議の設置目的でもあるが、委員の皆さんには、昨年度策定した総合計画・後期基本計画の進捗管理、自治基本条例や行政改革の推進についてお願いしたい。今年度からスタートし、これから取組が始まる自治基本条例は、庁内でも推進を強く指示している。このような市民会議はたくさん設置されているが、その内容についても積極的に市民へ公開していくこととしている。委員の皆さんには、ご発言をお願いし、自治基本条例が実りのあるものとしていきたい。
- ・委員の皆さんの意見を頂きながら、市政運営をしてまいりたい。お忙しい中ではあるが、ご協力をお願いしたい。

○自己紹介

- ・各委員から自己紹介
- ・事務局職員の紹介

会議の概要（つづき）

○座長の選出

- ・座長に中川幾郎氏（帝塚山大学大学院教授）を選出

○議事(1) 会議の概要及び運営進行について

<事務局>

- ・設置の経緯、会議の位置付け、委員の任期、委員の役割、会議の運営方針、会議の開催予定について事務局から説明
(説明内容については会議資料を参照のこと。)

<座長>

- ・会議の運営について、了解をいただいた。
- ・この会議では、自治基本条例、総合計画、行政改革と分野が非常に多岐にわたる。市民会議での議論をより意味のあるものとするため、それぞれの概要について事務局から説明してもらう。

○議事(2) 総合計画の概要について

<事務局>

- ・計画策定の経緯、計画の性格、計画の構成、まちづくり指標、重点プロジェクトの概要について、事務局から説明
(説明内容については会議資料を参照のこと。)

○議事(3) 平成25年度主要事業について

<事務局>

- ・平成25年度予算の概要及び主要事業について、事務局から説明
- ・市税と地方交付税で歳入全体の56%となっている。市税が地方交付税の額を下回ることが続いており、依然として厳しい財政状況である。
- ・市債の減少・投資的経費の増加については、平成24年度の公共施設整備が影響している。
- ・合併当時の18年度と23年度の決算を比較すると、扶助費や補助費等が大きな増加となっているが、人件費については職員数減などを受けて減少している。
(説明内容については会議資料を参照のこと。)

<委員>

- ・主要事業「こども医療費助成事業」について、予算・財源について聞きたい。

<事務局>

- ・従来は約10,000千円の事業であったが、約28,300千円拡充し、総額38,300千円となった。財源については、県による費用負担が1割程度あり、残額9割程度については市単独で事業を実施しているが、その財源は何かを削って捻出したものではない。

会議の概要（つづき）

○議事(4) 自治基本条例の概要と関係例規等の整備について

<事務局>

- ・約2年半の期間を費やし、相当回数の検討委員会を開催し、平成25年4月に施行
- ・自治基本条例の概要（全文・目的・基本理念・基本原則・市民の定義など）について、西脇市自治基本条例啓発パンフレットに沿って説明
- ・市民会議では、この条例に基づき定める必要がある例規・制度の進捗管理をお願いするとともに、条例のPRや活用の促進について、意見を頂きたいと考えている。
（説明内容については、自治基本条例啓発パンフレット及び会議資料を参照のこと。）

○議事(5) 行政改革の概要について

<事務局>

- ・行政改革大綱は、行政改革の方針を示している。その目的は、より質の高い行政サービスをより低いコストで提供すること、により市民満足度の向上を図ることとしている。
- ・行政改革の基本方針は、①市民起点の効果的な行政経営、②市民と行政の協働による地域自治、③持続可能な財政運営、として定めている。
- ・27年度における達成目標としては、財政調整基金30億円以上、経常収支比率90%未満、実質公債費比率14%未満、職員数 610人との数値目標を定めている。
- ・重点課題として、①市民による評価体制の確立、②行政ノウハウの継承、を定めている。
- ・具体的な推進項目として55の計画項目を定めている。24年度決算を受けて、推進状況が確定するため、次回の市民会議で報告したいと考えている。
（説明内容については、行政改革大綱第1次改訂を参照のこと。）

<市長>

- ・行政改革による効果額、金額はどうなっているか。

<事務局>

- ・18年度以降、累計18億円の効果額を算定。うち10億円程度は人件費の削減による効果で、合併後、一般行政職員を 100名程度削減したことによる。（23年度決算ベース）

<委員>

- ・用語の定義について聞きたい。

P F I…従来公共部門が提供していたサービスを民間主導で実施することにより、設計・建設・運営に民間の資金や技術、経営ノウハウを活用し、効果的・効率的なサービスの提供を図ること。従来の委託に民間のノウハウを導入した広義の委託。

クラウド…従来は庁内に設置したサーバーにデータやソフトウェアを格納していたが、外部のサーバーにデータやソフトウェアを格納し、データの消失に備えるとともに、ネットワークを介してソフトウェアを利用し、コストの低減を図ること。

O J T…上司や先輩が、職場にいる職員を日常業務の過程の中で訓練すること。（⇔集合教育・研修）

会議の概要（つづき）

○その他

<座 長>

- ・委員全員の意見・感想をお願いしたい。

<委 員>

- ・概要を聞いて責任を感じた。これから精一杯頑張っていきたい。

<委 員>

- ・社会情勢の変化に伴って条例や計画を変更することもあると思うが、この会議で出された意見をもとに議会の議決等を経て決定されるのか、あるいはこの会議で決定できるのか。

<座 長>

- ・この会議は審議会とは違うため、意思を決定する機関ではない。

<市 長>

- ・出された意見については参考にし、議会の議決を必要とするものは議会へ、市長が判断すべきものは市長で判断し、市政に反映していく。

<委 員>

- ・他の会議に参加すると、行政が主語となることが多い。市民活動が成功のキーになると思う。
- ・行政サービスについて市民満足という言葉があったが、一般サービス業では「満足」は当たり前で、ここまでしてくれるのかとの「感動」に変わっている。そこまで視野を広げてやって頂きたい。
- ・PDCAがきちんとなされているか疑問を持っている。期限を意識した仕事をする必要がある。注視していきたい。

<委 員>

- ・経費削減の観点から全戸配布について改善できないか、との思いがある。防災無線などの活用は難しいか。

<座 長>

- ・行政の立場としては、耳の不自由な方もあり、色々配慮が必要な場面もあるのだろう。

<委 員>

- ・行政改革の中で職員の人員削減が進んでいる。一方で、職員一人一人に負担がかかってくるのが心配である。

<委 員>

- ・西脇市が住みやすい町に、いろんな人に来てもらえる町になるように、市民というひとづくりではなく、個人としての立場で小さな意見でも言えたらと思う。

<委 員>

- ・市民アンケートを実施されたとのことだが、回答はどの程度か。

<事務局>

- ・発送数 1,000件のうち、494件の回答があった。今までで一番の回収率である。

会議の概要（つづき）

<委員>

- ・主要事業に自身が関係しているものがあり、そのことを皆さんに知っていただきたいと同時に、自分が活動する分野以外でも理解を深められたら、と思う。

<委員>

- ・会議資料に事前に目を通したが、説明を聞くとむずかしい言葉も多く混乱しているが、頑張っていきたい。

<委員>

- ・市政のトップが変わったら計画が変わってしまうのではないかと、行政の継続性に不安がある。
- ・町間の人口偏在、限界集落、コミュニティの弱体化の問題もある。町（行政区）の再編が必要ではないか。なかなか難しいが行政による後押しがあれば。町の再編が地域での人間関係の改善につながるような気がする。
- ・頑張っている職員もおおり、職員を削減だけでなく、やる気の出る仕組みなどを考えてほしい。

<委員>

- ・会議で説明を聞き、重要な役割だと思った。これから勉強していきたい。また、私も主要事業の一事業に関わっていた。このような支援にも感謝したい。

<委員>

- ・財政力指数について伺いたい。
- ・行政改革は大切であるが、社会的な弱者への配慮が不足することのないようにしていただきたい。
- ・人材育成には時間がかかるということに認識を持っておいていただきたい。

<事務局>

- ・財政力指数は、平成23年度決算ベースで0.52である。

<委員>

- ・自治基本条例の策定にかかわった。行政改革は初めてで不安もある。
- ・西脇市は自然が豊かである。自然という地域資源を生かしていくべきと考えるので、この会議で意見を反映できればと思う。

<委員>

- ・3つのテーマが関連あるとのことであるが、それぞれ大きなテーマで1つにまとめる意図を聞きたい。

<市長>

- ・関連するとはいえ、それぞれ大きなテーマで議論を尽くすのは難しい部分もある。事務局からも、指標などの数字を出していくので、ポイントで指摘してもらえれば、と思う。気軽に普段から思っておられることを市民の立場で述べていただき、行政の中でできる限り反映していきたい、と思う。

会議の概要（つづき）

<座 長>

- ・市民目線で感じられたことを率直に述べられたらいいと思う。
- ・自治基本条例は西脇市の基本規範。なくてもやっていけるが、行政が見えやすくなった、ということ。大きな前進である。総合計画もこの条例があればこそ存在している。
- ・フレームが条例、行動原理が総合計画、運動・活動が行政改革の三層構造となっており、一体的に扱うのは正しい。
- ・改革のプログラムを見ると、自治体側の項目が圧倒的に多く、住民側は地域自治システムの構築、住民主体のまちづくりの推進、の2項目と少ないが、これが最大の課題である。この課題を解決できると、強い自治体が作られる。

<事務局>

- ・次回の会議は12月頃に同時刻での開催を予定している。日程については追って連絡する。